

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 20 日現在

機関番号：34314

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22390444

研究課題名(和文) トランスレーションリサーチによる老年看護実践の促進 急性期病院への適用と評価

研究課題名(英文) Promoting gerontological nursing practice by the translation research: adoption and evaluation of a translation research model in acute care hospitals

研究代表者

松岡 千代 (MATSUOKA, Chiyo)

佛教大学・保健医療技術学部・教授

研究者番号：80321256

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,800,000円、(間接経費) 2,340,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、急性期病院におけるエビデンスに基づく老年看護実践の実行を図るために、トランスレーションリサーチモデルのTRIP介入モデルを採用して、その効果を評価することを主目的とした。TRIP介入モデルに従って、「EBPトピック」をせん妄予防ケアとし、「EBP利用者」として看護師への教育的介入、「社会システム」としての看護部への介入を多面的に行ったところ、看護師のせん妄知識の向上が認められ、TRIP介入による効果が検証された。今後は、TRIP介入モデルの病院以外でのフィールドでの活用効果に関する研究についてもすすめていきたい。

研究成果の概要(英文)：The main purpose of this research project is to adopt the TRIP intervention model, which is one of a translation research model, to improve evidence-based gerontological nursing practice in acute care hospital in JAPAN, and evaluating the effect. According to the TRIP intervention model, it was set up as follows: the "EBP topic" was delirium prevention care, "EBP user" was clinical nurses, and "Social System" was nursing administration department and nurse managers that belong there. TRIP intervention which consists of multifaceted intervention such as educational intervention was performed to the "EBP users" and "Social System".

As a result of TRIP intervention, the knowledge of delirium prevention care of clinical nurses has improved. In addition to diffusion of TRIP intervention model into clinical field, a future task of EBP research is to investigate the effect to TRIP intervention in institutional and home care field.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学 地域・老年看護学

キーワード：トランスレーションリサーチ EBP 介入研究 老年看護

## 1. 研究開始当初の背景

平成 17 年度の患者調査 (厚生労働省 HP) によると、65 歳以上高齢患者数の割合は 63.7% に上っている、このような状況は病院における看護ケアのほとんどが高齢者に費やされること意味している (Mayer 2004)。一方、高齢患者は、主疾患の重症度が高く他の慢性疾患を持っている、入院中に合併症や機能低下を起こしやすいなど、高齢者独自のヘルスケアニーズを持っており (Kleinpell, 2007)、入院も長期化する傾向にある。そのため高齢患者に特化した、ニーズ感度の高い看護ケアが求められており (Mezey et al, 2005)、看護師の経験や勘ではなく研究結果に基づく質の高いケア、すなわちエビデンスに基づく老年看護の実践が重要となっている (Naylor, 2005)。

エビデンスに基づく看護 (Evidence-based Practice: 以下 EBP とする) とは、最適なケアを決定するために、看護の専門知識として利用できる最良のエビデンスと患者・家族の選択を結合するプロセスである (Titler, 1999)。EBP はケアの質と患者のアウトカムを向上させ、医療資源の削減とコストの抑制に効果的である (Neaman et al, 2000) だけではなく、組織全体のアウトカムにも影響を与える (Huber et al, 2000)。しかしながら、EBP の普及 (dissemination) と実施 (implementation) は未だにゆっくりとしか進んでおらず (Boström, 2009)、リサーチエビデンスを実践に取り入れ臨床実践の変化をもたらすためには、理論的枠組や概念モデルに基づいた研究手法による積極的な拡大が求められる。このような研究手法はトランスレーションリサーチ (Translation Research: 以下 TR とする) やインプリメンテーション・サイエンス (Implementation Science) 等と呼ばれている。

TR とは EBP (Evidence-based Practice) の適用に影響を与える方法と変数に関する科学的な探索で、臨床上・組織上の意思決定を向上するために実践者とヘルスケアシステムによって行われるものであり (Titler & Everett, 2001)、EBP の適用を促進し維持するための研究的介入の効果検証を含む。TR のモデルはいくつか開発されているが、本研究では Rogers (1995) の Diffusion of Innovation Model に基づき、クリティカルケアでの EBN に活用できるように開発された TRIP (Translating Research into Practice) 介入 (Titler & Everett, 2001) モデルを基盤として、急性期病院での TR 普及のための基礎環境作りと評価、TR の実践ならびにその評価を行うことを目的とする。TRIP 介入モデルでは、EBP をイノベーションとして捉え、EBP の普及は「イノベーションの性質」と「社会システム」における EBP 「利用者」の「コミュニケーションプロセス」に影響され、そのアウトカムは EBP の適用程度によって検証されるというものである。

これまで平成 19 ~ 21 年には、挑戦的萌芽

研究として「エビデンスに基づく老年看護促進のためのトランスレーショナル・リサーチ導入の試み」として、IOWA 大学看護学部で開発された「エビデンスに基づく実践のステップモデル (IOWA モデル)」 (Titler, et al, 1999) を参考に、急性期病院での EBP の普及の試みとして病棟看護師に対する教育的介入を実施してきた。しかしその過程の中で、EBP に関する理解の不足 (個人的バリア)、EBP 情報取得のための組織的な情報環境と文化の不足 (組織的バリア)、またリサーチエビデンスの多くが英語論文であることの困難性等が明らかになった (松岡・濱吉, 2010)。

すなわち、看護師への教育的介入は実践の変化をもたらす効果的な方策 (O'Breien, 1997) ではあるが、EBP を組織全体に普及させるためには、看護師個人のみではなく組織全体の変革をもたらすための多面的な介入、すなわち先に示した TRIP 介入の実行 (Titler & Everett, 2001; Titler, 2007) が必要であり、TR のさらなる普及を推進したいと考えた。

## 2. 研究の目的

本研究は、TR の手法を活用して、特に急性期病院におけるエビデンスに基づく老年看護実践の普及を図り、その効果を測定し、応用に向けての評価を目的としている。本研究では、トランスレーションリサーチの理論モデルとして、米国アイオワ大学看護学部で開発された TRIP 介入 intervention モデル (Titler & Everett, 2001) を採用する。

また EBP 普及の前提として、その最新情報に容易にアクセスできる情報環境の整備と看護師の情報探索スキルが重要になる。本研究では、これら情報環境の整備と看護師の情報アクセスと文献クリティーク力の向上を図るための教育的介入を行い、その結果を分析することも研究の目的とする。

## 3. 研究の方法

### (1) 文献レビュー

本研究の実施の前提として、看護における EBP と TR 研究の動向、TR モデルの吟味、また EBP 実行に欠かせない EBP ガイドラインの作成方法等について文献レビューを行った (松岡, 2011 (雑誌論文 ~ ))。

まずは、EBP 実行の重要性について、患者ケアの安全性と質向上の観点と看護における EBP の利点・意義の観点から述べ、その上で EBP の定義と構成要素、EBP に対する批判、EBP 実行のバリア、TR の重要性、について述べた。

次に、TR のモデルについて、「組織的介入モデル」と「実践者主導モデル」に分類して、その概要について提示した。「実践者主導モデル」としては IOWA モデルと AHRQ モデル、「組織的介入モデル」としては、本研究で使用する TRIP 介入モデルの概要について

まとめて提示した。

#### (2) EBP 情報入手のための環境整備と教育的介入の効果評価

目的：急性期病院における EBP 促進のために、まずはその前提となる EBP 情報環境の整備を行い、看護師に対して EBP 情報アクセスと文献クリティーク力の向上を図るための教育的介入を行い、その効果評価を行うことを目的とした。

研究方法：EBP 情報環境整備と看護職への情報アクセス力と活用力に関する教育的介入の前後における、非ランダムに設定された介入群と対照群の比較を行う準実験デザインである。研究の対象は一般病院に勤務する病棟看護師であった。

#### (3) TRIP 介入の実施と評価

目的：急性期病院における高齢入院患者に対するエビデンスに基づくせん妄予防ケアの適用を促進する TRIP 介入モデルに従って組織的介入を行い、その効果評価を行うことを目的とした。

研究方法：本研究のデザインは、TRIP 介入前後にデータ収集を行う事前事後テストデザインである。研究の対象は、2つの一般病院の7病棟に勤務する看護師であった。

### 4. 研究成果

#### (1) EBP 情報入手のための環境整備と教育的介入の効果評価（松岡ら、2013、文献）

一般病院2病院に勤務する看護師（介入群：3病棟(41名)、比較群：3病棟(45名)）を対象とし、介入群に対して、EBP 情報検索環境整備(EBP 情報検索・収集のための PC、プリンター、スキャナの設定)、電子文献データベースの整備(医中誌 Web と医中誌文献複写サービスの利用環境整備)、EBP ホームページをとおしての情報提供を行った。さらに教育的介入として、文献検索マニュアル作成と講習会の実施、文献購読会・研究相談会を実施した。

介入の評価としては、介入の前・中・後に3回の質問紙調査として、看護師の基礎情報、エビデンスの入手に関する意識(看護情報の必要度、看護情報ツール活用の自信、看護情報の入手先)、「EBP バリア」に関する意識の変化を検証した。

繰り返しのある二元配置分散分析の結果、EBP バリアのうち、「文献収集困難」( $F=3.46, p<0.1$ )と、「研究の多くが英語で書かれているので理解しがたい」( $F=3.91, p<0.1$ )において交互作用、すなわち介入による意識の変化が認められた。「文献収集困難」では、介入前後において、介入群では平均点の低下、比較群では平均点の上昇が認められた。つまり、介入群においては、情報環境の整備と、情報検索スキルの講習会などの教育的介入によって、介入前に比べて介入後に文献収

集の困難性が低下しており、介入の効果があつたといえる。また、「研究の多くが英語で書かれているので理解しがたい」では介入群において理解しがたさが増していた。この結果は、文献購読会や文献検索を行う中で、英文献に接する機会が多くなったことで生じたのではないかと考えられる。つまり EBP や研究への関心や理解が深まるとともに、英文献を読むことの必要性を感じる一方で困難性を実感した結果が示されているものと考えられた。

本研究の結果について、EBP を推進していくための基盤整備として、EBP 情報入手のための環境整備と教育的介入によって、看護師の情報アクセス力の一部が向上することが示された。また、EBP 推進の情報環境の実態とそれに対する看護師の意識について、米国では明らかにされているが、日本の一般病院において同様の調査研究はこれまで行われておらず、その結果が公表されたことに関しては一定の意義があると考えられる。

今後の課題として、情報アクセス力向上のための教育的介入について、年代に合わせた内容、実施回数、形式の見直しを行い、さらには組織的・多面的な介入手法を取り入れて EBP 普及を進めていくことが求められる。

#### (2) TRIP 介入の実施と効果評価（松岡ら、2014、文献）

TRIP 介入の具体的な介入内容は、「社会システム」への介入として看護管理者と看護長に対する EBP 普及に関する講演会を1回開催した。また看護師に対しては、【コミュニケーションプロセス】への教育的介入として、1回目：せん妄予防ケアの研修会、2回目：せん妄予防ケアガイドラインの抄読会とクイックリファレンスガイド案の検討、3回目：改訂クイックリファレンスガイドの確認と病棟への知識普及についてのディスカッションを行った。その後、クイックリファレンスガイドを病棟に配布して、病棟内での学習会を実施した。一方、ニュースレターを作成して、病院管理者と病棟へ配付し【社会システム】への介入を実施した。

効果評価として、研究対象者に対して TRIP 介入の前後に質問紙を配布して、せん妄予防ケアの意識、せん妄知識テスト、EBP 実行の意識を回答してもらった。介入前後の回答傾向の変化は対応のある t 検定を用いて検証した。

TRIP 介入前後で回答傾向の変化が認められたのは、せん妄知識テストであり、介入前の平均点は7.06点( $SD=1.71$ )、介入後の平均点は7.91点( $SD=1.83$ )と有意に上昇した( $p=0.02$ )。このことから、TRIP 介入によって、看護師の高齢入院患者に対するエビデンスに基づくせん妄予防ケアの知識得点が向上したと考えられた。

このことから TRIP 介入によるエビデンスに基づくせん妄予防ケアの普及に一定の効

果は認められたと考えられる。TRIP 介入によって EBP 推進を目指すためには、看護師の正しい知識の獲得が求められるため、今後 EBP を発展させていく上で有益な結果であったといえる。今後、TRIP 介入効果の評価に関して、入院高齢患者のせん妄症状の転帰や薬剤使用量など、看護師・患者のアウトカムだけでなく、費用対効果のアウトカムについても効果評価を行うことが求められる。

### (3)今後の展望

平成 19 年からスタートした挑戦的萌芽研究と、平成 22 年からの本基盤研究において、これまで老年看護領域におけるエビデンスに基づく看護実践の促進を目的として、米国内で開発された TR モデルを活用し、主にせん妄予防ケアを EBP トピックとして実証研究を行ってきた。これら TR モデルの実行可能性については、モデルを用いた介入研究によって一定の効果が認められ、日本での実用可能性が支持されたといえる。

今後の老年看護実践に関する展望としては、今回活用した TR モデルは、臨床での実行において容易ではないことから、EBP の組織文化の形成も視野に含めた、看護管理者から看護スタッフまでが臨床で活用できる TR モデルのマニュアル化を図っていきたいと考えている。

また老年看護教育に関しては、特に大学院での専門看護師や高度実践看護（日本版ナースプラクティショナー(NP)）教育において、EBP 実行能力(コンピテンシー)の獲得が今後ますます重要となると考えられる。米国では、高度実践看護師の基本的コンピテンシーの一つとして EBP 実行能力があげられており、大学院教育課程で EBP 科目は必修科目となっている。今後、日本においても専門看護師に加えて、高度実践看護師の育成が推進されると予想されることから、臨床における EBP 実行・TR に関する教育プログラムの開発やテキストの編纂をしていきたいと考えている。

老年看護研究に関しては、これまでは一般病院をターゲットとして老年看護実践の質向上を目指した EBP 実行・TR を行ってきたが、今後は療養型病棟、介護老人保健施設での EBP 実行・TR 研究を進めていきたいと考えている。さらに、EBP トピックは、一般病院において重要性が高いと考えられたせん妄予防ケアを中心であったが、今後は転倒予防ケアや尿失禁予防ケアなど、高齢者ケアに重要なトピックに広げて、EBP 実行と TR をすすめていき、その実証効果を検証していきたい。

### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 8 件)

松岡千代・濱吉美穂・後藤小夜子(2014) 一般病院における高齢入院患者に対する TRIP 介入モデルに基づいたせん妄予防ケ

アの効果、佛教大学保健医療技術学部論集、査読有、Vol.8、47-58 .

松岡千代(2013) 臨床における EBP 実行の重要性と評価、日本看護評価学会誌、査読無、Vol.3、No.1、25-32 .

松岡千代・濱吉美穂・石橋信江・堂園裕美(2013) EBP (Evidence-based practice) 推進のための看護師の EBP 情報アクセスと利用の向上を目指した情報環境整備と教育的介入とその評価、佛教大学保健医療技術学部論集、査読有、Vol.7、27-39 .

濱吉美穂・松岡千代(2011) 臨床看護師に対するエビデンスに基づく高齢者のせん妄予防ケアガイドラインを使用した教育的介入の効果—EBP の普及に向けた試み—、兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要、査読有、Vol.18、65-80 .

松岡千代(2010) EBP 実行のための EBP ガイドライン、看護研究、査読無、Vol.43、No.4、297-304 .

松岡千代(2010) EBP を根づかせていくための概念モデルと方略 : 臨床で EBP を推進するための「実践者主導モデル」—IOWA モデルと AHRQ モデル、看護研究、査読無、Vol.43、No.4、2011、271-287

松岡千代(2010) EBP 実行を促進するための TRIP 介入モデル、看護研究、査読無、Vol.43、No.3、193-202 .

松岡千代(2010) EBP を根づかせていくための概念モデルと方略 : EBP の概念とその実行に向けた方略、看護研究、査読無、Vol.43、No.3、178-191 .

〔学会発表〕(計 8 件)

Matsuoka C, Hamayoshi M, Gotoh S, The Effect of a Translating Research into Practice (TRIP) Intervention on Delirium Prevention Care in Older Adults, The Joanna Briggs Institute 2013 International Convention, Adelaide; Australia. Oct. 21-23, 2013.

松岡千代 臨床における EBP 実行の重要性と評価、第 3 回日本看護評価学会学術集会 講演、2013 年 2 月 27-28 日

松岡千代 EBP を臨床にトランスレーションする試み—TRIP 介入モデルを用いて—、大阪大学 Joanna Briggs Institute (JBI)提携センター 第 2 回シンポジウム「臨床にエビデンスをとりいれる試み」、2012 年 12 月 2 日

Matsuoka C, The Effect of the Educational Intervention using Research Database for Nurses to Promote Implementing EBP, The 8th Biennial Joanna Briggs International Colloquium, Chiang Mai: Thailand. Nov. 12-14, 2012.

松岡千代 臨床での EBP 実行にむけて—実践に活かせる研究的取り組み—、根拠に基づく看護実践 (Evidence Based-Practice: EBP) ワークショップ、

静岡県立大学看護学部、2012年3月18日  
Matsuoka C, Hamayoshi M, Ishibashi, N.  
Tasks for Dissemination of Evidence-  
based Practices Clarified thorough  
Interventional Training of Evidence-  
Based Delirium Prevention for the  
Elderly, 14th EAFONS (East Asian  
Forum of Nursing Scholars), Seoul:  
South Korea. Feb. 11-12, 2011.

松岡千代・濱吉美穂・石橋信江 看護師に  
対する高齢者のせん妄予防ケアに関する  
教育的介入、日本看護科学学会第30回学  
術集会、札幌市、2010年12月3-4日  
松岡千代・濱吉美穂・石橋信江 エビデ  
ンスに基づく老年看護実践の促進を目指し  
て、日本老年看護学会第15回学術集会 交  
流集会、群馬県、2010年11月6-7日

〔図書〕(計1件)

松岡千代、南江堂、“どうすればよいか？に  
答える”せん妄のスタンダードケア Q&A  
100、pp.26, 29-30, 71-72.

ホームページ等

<http://www.ebp-kango.ne.jp/> (現在工事中)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

松岡 千代 (MATSUOKA, Chiyo)  
佛教大学・保健医療技術学部・教授  
研究者番号：8 0 3 2 1 2 5 6

### (2) 研究分担者

濱吉 美穂 (HAMAYOSHI, Miho)  
佛教大学・保健医療技術学部・講師  
研究者番号：8 0 5 1 4 5 2 0  
(平成22年度、平成25年度)

石橋 信江 (ISHIBASHI, Nobue)  
元 兵庫県立大学・看護学部・助教  
研究者番号：5 0 4 5 3 1 5 5  
(平成22～23年度)

堂園 裕美 (DHOZONO, Hiromi)  
元 兵庫県立大学・看護学部・助教  
研究者番号：0 0 6 1 3 1 7 6  
(平成23年度)

後藤小夜子 (GOTHO, Sayoko)  
佛教大学・保健医療技術学部・助教  
研究者番号：8 0 7 1 2 1 8 2  
(平成25年度)